
それぞれの物語・序章

学校嫌い

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

それぞれの物語・序章

【Nコード】

N7228Y

【作者名】

学校嫌い

【あらすじ】

ごく普通の三人の高校生がある日の帰宅中、黒い穴に吸い込まれて別々の世界に飛ばされ、別々の人生を送る話。

その日、三人の高校生はいつもと変わらない日常を過ごしていた。

まずはその三人を紹介しよう。

一人は高町亜美。たかまちあみ

身長は高校生女子としては、おそらく平均的な154?。

体重は本人の希望により非公開。

雪を思わせる白い髪を首もとで束ねている。

瞳は空を思わせる程青く透き通っている。

この春から高校生デビューをしたごく普通の女の子である。

正確は正しく天真爛漫と言った感じで常に明るい。

唯一、違う点があるとすれば、それは彼女が自他共に認める同性愛者だということだ。

それに付いては別の機会に本人から語られるだろうと思う。

次に左に経っている少年の更に左を歩いている女の子。

名前は狩谷雫。かりやしずく

高町亜美と少年の一つ上の先輩に中る人物だ。

高町亜美と少年とは幼馴染みであり二人を妹や弟の様に思っている。
身長は165?。

体重は言ったら殺すとのことで同じく非公開。

黒髪をポニーテールにしている。
瞳も同じく黒。

体型はこのモデルですか？と問われる程見事であり、正しく学園のアイドルと言った感じた。

正確は気さくで、誰とでも普通に会話が出来る。
但し、この少女、自他共に認める毒舌家である。
それについても本人から語られるだろうと思う。

最後にそんな二人の間を歩いている少年。

名前は野中旭。
のなかあさひ

身長は170？。

体重は62？。

髪は蒼の短髪。

目は正反対の紅。

体型は見た目こそ細いが、幼いころから鍛えており無駄がなく、また運動神経も高い。

正確と呼べる様な物がない代わりと言った感じで、驚くほどに無表情。

曲がり角から突然車が来ようと。

家が突然停電になろうと。

高町亜美が突然背中にくっついてこようと。

狩谷雫が突然唇を塞いで来ようと。

何があっても表情は変えない。

それが野中旭である。

三人共、朝は普通に起床し、普通に朝食を食べ、普通に学校へ行き、

普通に授業を受けていた。

そして普通に帰宅すると思っていた。

否。

思うまでもなくそれは当たり前だった。

だが、そんな当たり前は突如三人の前に出現した黒い穴によって打ち破られる。

「ちょ！何よこれ！？」

「さあ」

「さあ・・・って、旭はこんな時でも変わらないね？」

それはあんたもだ！と狩谷雫がツツコミを入れている間、穴は規模を広げていた。

（このままだと、僕たちあの中に入っちゃうよね・・・どうしようか？）

と暢気に野中旭はそんなことを考えていた。

「あれ？さっきより大きくなってる？」

「え？うわ、ホントだ！とりあえず逃げるわよ！」

狩谷雫は二人の手を掴み走り出した。

本人は走り出したつもりだった。

だが――

「吸い込まれてるね」

野中旭の言う様に三人は穴に吸い込まれ今にもその中に入って行きそうになっている。

狩谷雫は必死にその場に踏み止まろうとしているが、確実に引き寄せられている。

「あんたはホントに！少しは表情変えなさいよ！」

「変えても何も変わらないって」

「全くだ！あははー！」

「あんたもよ！て・・・あ、やばい？」

「うん。やばい」

「きゃあああああ！」

今の遣り取りで力が緩んでしまい、三人はそのままその黒い穴に吸い込まれた。

そして初めからそれが目的だったと言つように、黒い穴は姿を消した。

ここから三人はそれぞれ別の場所、いや——別の世界へと飛ばされた。

「きゃああああ！」

先ずは高町亜美。

彼女は現在空から自由落下している最中である。

叫んでいるが、その声に恐怖などは含まれていない。

もし誰かが聞いたら楽しんでいることが直ぐに分かる声である。

「どこだろう？ま、いつか！あはははー！」

こんな事態になつてもそれで済ませる辺り、凄いのか凄くないのか分からない。

「うわ！」

狩谷雫は辺り一面が草原の所に飛ばされた。

なんとか視認できる距離に大きな桜の木がある。

幸いなのか、辺りには誰もいない。

魔物はいるが・・・。

この世界の名は——テルカ・リュミレース。

「・・・・・・こんにちは」

最後に彼。

他二人と違い、なんの危なげもなく着地した。

そんな彼が挨拶をしたのは、現代では有り得ないサイズの生物と対峙している者達。

周りは戦争でもあったのかと思うほど荒れ果てている。

そんな、突然現れ、突然挨拶をした彼を見て、対峙していた五人の男女は動きを止めてしまった。

彼の大きすぎる力を感じてしまった為に——

生を歩むこととなる。

これから三人は別々の人

さて。

見る？

君は誰の物語を

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7228y/>

それぞれの物語・序章

2011年11月21日17時23分発行